

## 令和7年度 第1回 城陽市環境審議会 議事録

日時	令和7年12月12日（金） 午前9時30分～11時20分	
場所	城陽市役所本庁舎4階 第2会議室	
議題	<p>①令和6年度環境測定結果の報告について ②令和6年度城陽市環境マネジメントシステム（J-EMS）実施結果について ③城陽環境パートナーシップ会議事業報告について ④第3次城陽市環境基本計画の策定について</p>	
出席者	委員	新川会長、中川副会長、山縣委員、中原委員、安村委員、弘本委員、田浦委員、山岡委員、小谷委員
	行政 (事務局)	上羽市民環境部長、藤林市民環境部次長、木村環境課長、藪内環境課環境係長、太田主任

### ＜質疑等の概要＞

（以下、会長発言を「会」、副会長発言を「副会」、委員発言を「委」、事務局発言を「事」とする。）

#### ①令和6年度環境測定結果の報告について

事務局より説明。

会) ただいま令和6年度環境測定結果について事務局より報告を受けました。この議題につきまして、ご質問、ご意見等いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

副会) 長谷川のSSの数値が少し高くなっていますが、今池川においても、過去の測定でSSの数値が高く、流れてきたSSにより川底に泥などが溜まっている状況となっていました。今後も今池川の状況を注視していく必要があると考えます。

会) 引き続き、今池川の状況等について注視をお願いします。

副会) 地下水の硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が環境基準値未満のことですが、原因分析等は実施されていますか。

事) 現場の状況は以前と変わっておらず、原因はつかめていません。引き続き経過観察を実施していく予定です。

会) 状況に応じ、慎重に臨機応変な対応をお願いできればと思います。

委) 集中豪雨といった気候変動上の問題がどのように影響しているのかを含めて調査し、調査内容を資料の備考欄等に記載することで、調査結果の確認をする際に注意喚起といった視点を設けられるかなと思いますので、少し工夫いただければと思います。

会) 年間雨量等も含め、情報をいただけすると大変ありがたいので、よろしくお願ひします。

副会) 城陽市において、農作物の高温障害が発生しています。米づくりにおいては、等級が下がっているとの話も聞いています。農地によっては、地下水利用により高温障害対

策をしているケースもありますが、このような事実についても環境の課題として把握してはどうでしょうか。

- 会) 農作物の収穫・生育等に温暖化の影響が表れているケースもあるため、事務局でも情報収集等の対応をお願いできればと思います。
- 会) P F A Sについて昨年度の審議会において話題になりましたが、その後、城陽市では話題になっていないとの認識で良いでしょうか。
- 事) P F A S測定等につきましては京都府にて実施しており、京都府と情報連携しています。府内全域で調査をされており、時間がかかっていると聞いています。
- 会) 状況が分かり次第、審議会にて報告いただければと思います。
- 副会) マイクロプラスチックの人体への影響について調べていますが、水質の環境基準に記載がない項目だとしても世間の話題になっている環境問題もあります。そのような問題に対する運用について検討すべきだと思います。
- 会) 人の体内からもマイクロプラスチックが発見されているようですので、このような情報について事務局においても注視いただければと思います。
- 副会) マイクロプラスチック等の新たに出てきた環境問題に対し、注意を向けていただければと思います。
- 会) その他ご意見はございますか。
- それでは、令和6年度環境測定結果については以上とします。

## ②令和6年度城陽市環境マネジメントシステム（J-EMS）実施結果について

事務局より説明。

- 会) ただいま令和6年度城陽市環境マネジメントシステム（J-EMS）実施結果について事務局より報告を受けました。この議題につきまして、ご質問、ご意見等いただければと思います。よろしくお願ひいたします。
- 委) J-EMSが定着していることが良く分かりました。以前からの課題だとは思いますが、電気の排出係数が温室効果ガス排出量の増減に影響しています。温室効果ガス排出量の経年変化と併せて、エネルギー使用量の経年変化を記載いただくと分かりやすいかと思います。また、市民や企業に率先し、城陽市が再エネ電気を調達する必要があるかと思います。調達には経費や入札等の課題があるかと思いますが、これまでの取組や方向性、展望等について教えていただきたいです。また、施設改修等のタイミングで太陽光発電設備を設置されているケースもあるかと思いますが、設置状況について伺いたいです。また、重油ボイラーを更新されたとのことですですが、どのようなボイラーに更新されたのか伺いたいです。
- 事) 温室効果ガス排出量については、電気の排出係数に依存しているのが現状です。エネルギー使用量については、最近は横ばいの状況です。排出係数に依存している状況の中で、今年度の11月から高圧電力の複数施設を対象として、費用面及び環境面の両側面を踏まえた上で電力会社を変更しています。この変更により、排出量は減少すると見込んで

いますが、契約が1年間となっているため、その後は未定です。太陽光発電設備の設置については、予算の関係で既存施設への設置は難しく、施設の改修時や新設時の設置を検討しています。現状、10kWの太陽光発電設備を13機設置しており、現在は鴻ノ巣山運動公園の市民体育館の全面改修に合わせ、10kWの太陽光発電設備の設置を進めています。なお、ボイラーについてはガス式へ変更しており、排出係数は下がる見込みです。

委) おそらく、学校の断熱性能がかなり低い状況かと思います。最近、断熱改修ワークショップが全国的に拡がってきており、学校や地元工務店が一緒になって教室を断熱するという取組となっています。費用はかかりますが、断熱性能が上がるとともに、生徒の断熱の意識が高まることから、城陽市内の学校でも取り組まれると良いのではないかと思います。また、太陽光発電設備についてはPPAで市の費用を使わずに搭載する手法もあるため、検討いただければと思います。

会) ご提案いただいた内容について、検討いただければと思います。J-EMSエコスクールの中でも省エネルギーが課題にあがっているため、断熱ワークショップについても検討いただければと思います。また、PPAにより、市の持ち出しなしで再エネ設備を設置できるため、このような手法も検討いただければと思います。

委) J-EMSエコスクールは城陽市の素晴らしい取組だと思います。学校にとっても生徒にとっても良い経験となるため、断熱ワークショップのような取組ができるのを学校側に示してはどうでしょうか。どうすれば取組を実現できるか、工夫をお願いできればと思います。いくつかのメニューを学校側に提示していくことが大切なと思います。また、どんぐりやまプロジェクトではパートナーシップ会議が学校と密接に繋がっていらっしゃいますが、それ以外の部会の方々もJ-EMSエコスクールと繋がりを持ち、学校に外部から人が加わって活動を回していくような方法論があっても良いのではないかと思いました。

会) J-EMSエコスクールにおいて、学校、地域、環境活動との積極的な取組を具体的なメニューとし、学校側に提案してはどうかとの話をいただきました。教育委員会やパートナーシップ会議と連携し進められることがないか、検討をお願いします。

副会) 内部監査について、職員負担が軽減されるようなやり方を検討してはどうでしょうか。紙ベースから離れ、DX化を図った監査をしていただければと思います。これにより、事務局側の負担が減り、監査もしやすくなるのではないかと思います。すぐには難しいかもしれないですが、ご検討いただければと思います。

会) 庁内や環境監査のDX化は進んでいますか。

事) デジタル推進課を発足させ、窓口の効率化等、DX化を進めている状況です。J-EMSについてもDX化による効率化を図っていきたいと考えていますが、まず何が効率化できるのか検討を進めていきたいと考えています。環境監査等の事務に負担がかかっていることから、DX化による効率化を図っていきたいと考えています。

副会) DX化の専門家にも相談いただければと思います。

会) 審議会は紙ベースの情報をいただいているので、このあたりも併せてDX化の検討をい

ただければと思います。

委) 温室効果ガス排出量について、42%削減という高い目標を掲げていただいているところですが、目標達成に向けてはかなりの削減努力が必要かと思いますので、頑張っていただきたいです。

会) これまでのやり方では、これ以上の削減ができないところまで来ているかと思います。

先程のボイラー変更や施設の断熱効果向上等により、費用対効果を含めたエネルギー使用量や温室効果ガス排出量の削減について検討いただければと思います。行き詰っている課題をどのように解決していくかが次期計画でもポイントになってくるかと思いますので、前向きに検討いただければと思います。

会) その他ご意見はございますか。

それでは、令和6年度城陽市環境マネジメントシステム（J-EMS）実施結果については以上とします。

### ③城陽環境パートナーシップ会議事業報告について

事務局より説明。

会) 城陽環境パートナーシップ会議における令和6年度の事業報告、本年度の事業計画でした。各委員からご質問等ございましたら、お伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

委) パートナーシップ会議の運営委員をしていますが、城陽の特産である梅へのクビアカツヤカミキリに対応しているのがこの1年の変更点となります。また、鹿、猪や猿が青谷地区の街中に出でてきており、最近は熊らしきものまで出でてきている状況です。自然を守ることと、これらの対策の両立が今後の課題になってくるのではないかと思います。観光協会では、年に5回程度里山ウォークという取組を進めてきましたが、最近は熊の影響で取組を中止している状況です。

事) 昨年度、今年度の環境ミニフォーラムにおいてクビアカツヤカミキリの講演をいただくなどして、啓発を実施しています。幸いに本市ではまだ発見されていない状況ではありますが、近隣市町では見つかっている状況です。プラスが手掛かりとなるため、早期発見に向けて啓発を実施している状況です。

委) 気候変動による農業や生活への影響について、パートナーシップ会議で整理し発信いただけだと、市民の方が脅威やリスクについてより身近に感じることができると思いました。また、大学生との連携のような若い方が入る取組は良いことだと思うので、大学との連携強化等を進めていただければと思います。また、Jリーグが気候変動対策の取組に力を入れており、学校教育として京都サンガの選手が城陽市内の小学校を訪問する予定があるので、J-EMSエコスクールとも連携できれば良いのかなと思います。

会) 連携等できれば良いかと思いますので、事務局でも状況を注視いただければと思います。

会) その他ご意見はございますか。

それでは、城陽環境パートナーシップ会議事業報告については以上とします。

#### ④第3次城陽市環境基本計画の策定について

事務局より説明。

- 会) 第3次城陽市環境基本計画の策定についてでした。各委員からご質問等ございましたら、お伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。
- 会) 次期計画においても、パートナーシップ会議と連携したいと伺っており、積極的に連携して進めていただければと思いますので、よろしくお願ひします。
- 委) 予算要求について、物価高騰や人件費高騰によるコンサル業界の状況はいかがでしょうか。
- 事) コンサル会社は人件費が大きく、人材不足の影響もあり、委託料が高騰している状況です。
- 委) プロポーザル形式を予定しているのでしょうか。
- 事) 業者も様々ですので、価格以外を加味するためにプロポーザル形式を予定しております。
- 委) これまで通りの内容で委託するのは難しいのではないかと思いますので、DX化等含め、知恵を絞っていく必要があると感じました。
- 副会) 計画策定におきましては、城陽市の特色や課題を含めた形で実施していくことが大切なと思います。
- 委) 高齢化が進む中、10年後に市民の年齢層がどうなっているか疑問があります。移動手段等について考える層が増えていくのではないかと思います。計画策定時には、高齢化を考慮することになるかと思います。
- 委) 高齢化が進む中で、高齢化等、エネルギー問題のどのような部分に投資していくかが重要かと思います。
- 副会) パートナーシップ会議等において若返りを図り、若い目線を取り入れていくことが大切だと思います。
- 会) 城陽市の人口減少や高齢化の中で、地域の活力をどのように維持していくか、どのように取組を実現していくかという点で検討いただければと思います。また、一人一人の暮らし方にマッチするような環境計画を策定していく必要があり、家庭起因の温室効果ガス排出量については高齢化により上昇する可能性があることから、市民生活についても議論していくことを検討いただければと思います。
- 委) 活動が市民に拡がっていくことが大切だと感じています。若い世代を含め、市民の中に環境審議会が浸透していくと良いと思いました。
- 会) その他ご意見はございますか。
- それでは、第3次城陽市環境基本計画の策定については以上とします。その他事務局からございますか。
- 会) それでは本日の会議は、以上で終了させていただきます。
- 真摯な議論をありがとうございました。

以上